

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200376		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームえがおの里浜北(いちご・北側、もも・南側 2ユニット合同)		
所在地	静岡県浜松市浜北区中条1102番地		
自己評価作成日	平成25年10月18日	評価結果市町村受理日	平成26年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&Jigvovocd=2297200376-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成26年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、法人の基本理念を念頭に、入居者様に対し「ご本人らしく、1人ひとりの生活スタイルや思いを大切にしたい”個を尊重した介護”」を目指し、日々精進しています。また地域との関わりも大切に、散歩などの際に地域の方々とのコミュニケーションを図ったり、地域住民によるオカリナ演奏会を定期的に開催するなど、交流を図っています。敷地内にはホームの畑があり、季節ごとに野菜を育て、入居者・職員・地域の方々にもお手伝いを頂きながら、採れたての新鮮な野菜を堪能することを楽しみにしています。その他、季節ごとのイベントやドライブ、外食なども定期的に行うことで、季節を楽しみながら生活して頂けるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

主要道路から1本なかにはいった静かな住宅街に事業所はあります。開放的で人なつこい風土をもつ地域柄、敷地内にある畑の耕作では「何つくってる?」「手伝いが必要ならいつでも言ってね」との声がかかります。特に自治会長の尽力には頭がさがるものがあり、つい先だって行われた地域防災訓練でも北浜中学の男子生徒を率いて避難誘導をかってでて下さいました。事業所の秋祭りには和太鼓の活気とともに演歌歌手の出演もあって地域からは50名余の参加を得ており、また地元の夏祭りには山車が立ち寄ってくれるなど開設から2年目に入って益々地域交流が進んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を念頭に「ご本人らしく、1人ひとりの生活スタイルや思いを大切にしたい”個を尊重した介護”」を目指し、それぞれの職員が利用者様の思いを大切にしたい介護の実践に日々努めている。	法人理念とともにホーム理念 “利用者スタッフの和、は会議でも触れています。「表情もかわる」というくらいオンオフの切り替えに長けた職員が多く、管理者は日々の実践は確かなものであると感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的に散歩等に出かける際、近隣の方たちとコミュニケーションを交わしている。また、地域住民によるオカリナ演奏会を定期的に開催し、交流を深めている。	職員を通じてのボランティア訪問が増えています。自治会長紹介のオカリナ演奏は定期訪問となり、旧知の間柄のように歌詞カードで顔を寄せ合う利用者の姿が恒例となっています。	中学校の職場体験も継続するなか今後は幼稚園も予定されているとのことですので、年間計画に織り込み、さらに発展することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年3月に認知症の理解を深めるため、グループ法人である専門学校浜松医療学院の教員を講師に招き、入居者のご家族、地域住民を対象に、認知症講習会を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況の報告を行い、それぞれの意見やアドバイスを頂いている。また、地域防災についても話し合いを行い、地域の防災訓練において、避難・救助の手伝いを取り入れてもらえるようになった。	現在は3ヶ月毎に、市、地域包括支援センター、自治会長、町内会長、家族と多彩な顔ぶれで開催しています。運営推進会議を通じて実現したことや地域との協力体制が進んだ事例もあり、有益に活用されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と連絡事項の確認や相談等を積極的に行っている。また、運営推進会議に参加して頂き、直接アドバイスを頂いている。	市の担当者とは顔見知りで、相談しやすい関係にあります。行政の支援を得て、浜北地区のグループホームが当事業所に集ったの意見交換会ができたことは、新設事業所にとって大いなるモチベーションに繋がりました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームは、「身体拘束0宣言」をし、ホーム入り口の目に付くところにポスターを掲載し、従業員にも周知徹底している。	玄関の施錠はなく、「でかけたい」言動のある利用者には職員が付き添い一度外に出るようにしています。出ることで満足し、建物内に戻るケースが増えています。外部研修を内部に落とし込み職員意識が高まっているためか、利用者も日毎に落ち着いた風情がみられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束のマニュアルがあり、全員が把握している。玄関やフロアの施錠も行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティングを通じ、権利擁護に関する理解を深めている。また、ご家族からの相談に応じ、必要性の可否について検討の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定、全てにおいて、入居者様・ご家族に、十分な説明を行い、理解と納得をしていただいてから契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、入居者様・ご家族・職員で会話をする機会をもうけており、そこで得られた情報を日々の介護に反映できるよう努めている。	面会時間に制限がないためか、大半の家族で週1回程度の訪問がみられ、事業所でも毎月「えがおだより」と身体状況を届けています。ユニフォームに名前を入れることは家族意見からの反映事例です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催するスタッフミーティングにおいて、それぞれの意見や提案を聞く機会を設けている。また、代表者が個人面談を定期的に行い、職員1人ひとりの気持ちや意見を伺う場を設けている。	2つのユニット合同の会議が毎月開催されるほか、3ヶ月に1度法人で個人面談を行い、意見収束や悩み事相談の機会を設けています。職員からは随時提案があり、特にレクリエーション分野に多く寄せられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規程により、資格を取得した職員に対して資格手当を支給したり、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握した上で、毎年昇給を行うなど、向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティングで内部研修を行ったり、個人に合った外部研修への参加を勧めている。また、毎日のケアにおいても常に勉強である意識するように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浜北区が開催する介護事業所等情報交換会に出席するなど、同業者と交流する機会を設けている。また、昨年、浜北区役所の職員と話し合い、同じ浜北区内のグループホームの管理者が集まり、交流会を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人と直接会い、思いや不安について話をじっくり聞いている。また、会話だけではなく、会話の中での表情からも本人の思いを察するように心がけ、得られた情報は全職員で共有するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明時に管理者とご家族が面談を行い、訴えや相談に親身に耳を傾け、入居後に入居者様・ご家族共に安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望と状況を判断し、入居者様の状態を見極めたうえで、必要なサービスの検討・実施を行うよう努めている。必要に応じて外部の鍼灸マッサージ師によるマッサージやリハビリを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、得意なことや経験を活かし、畑仕事や家事の手伝い、歌をうたうなどの場面作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「身体状況のお知らせ」を作成し、毎月ご家族に現在の様子をお渡ししている。また、出来るだけ足を運んで頂けるよう、家族会の開催を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親族、友人などの訪問や、入居者様の外出なども円滑に行えるように努めている。	裁縫が得意な利用者にはボタンつけをお願いしたり、畑好きな人は職員を指導しての耕作に励み、その人の自己有効感を育む取組みがみられます。また日記をつけたり、カラオケで自慢の喉を鳴らす人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いにより良い関係が築けるような環境を提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係を大切にし、必要に応じ相談等をおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、一人ひとりの小さな変化を見逃さず、会話や表情から本人の思いを読み取るよう注意し、職員間で情報を共有し、出来る限りその人らしい生活が出来るようケアしている。	事業所独自のアセスメントシートを用い、また日頃の会話に着目し、その人を知る努力を怠りません。入居前には家庭や病院を訪問し、暮らしの様も直に確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報として聞きとりを行っている。入居後においても、ご家族や本人との会話などから、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、身体状態に応じてさらに生活の変化を常に観察し、日々の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画期間に応じたケアの見直しのほか、入居者の体調の変化に応じた随時の見直しを行っている。見直す際には、職員間で話し合うことはもとより、本人・家族の意見や要望を聞いている。	アセスメントと同じくモニタリング表も独自のものを作り、事業所方針が貫かれていることが現れます。担当者制を敷き、職員が責任をもって家族の聞き取りを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入や、申し送りなどで口答でも報告・相談を行い、情報の共有をすることで、より良いケアの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況を考慮し、状況により通院の付き添いや外出支援など、出来る限り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの畑で野菜を育てることで、これまでの経験を活かしながら、やりがいを持ち、生活を楽しむ機会を作っている。また、地域のお店まで外出して食事をとる事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医を決定し、利用前のかかりつけ医の診察を受けられるよう配慮している。希望者は提携医による月2回の往診や緊急時の24時間対応を受けられるよう支援している。	利用者のほとんどが事業所の協力医に変更しています。通院には職員が必ず付き添い、利用者が不安にならないよう、また医師に普段の心身状況が的確に伝わるよう配慮しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が訪問し、健康管理等を行っている。その際に、日々の変化を伝え、情報を共有している。また、緊急を要する時は、オンコールにて相談、指示を仰ぎ、適切な医療が受けられる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院前の情報を医療機関に提供し、入院中もご家族・職員・病院関係者と連携する事で、経過を把握して退院後の生活に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応について、入居者の要望に応じて支援できるよう、取り組みの方針を共有している。利用契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明するとともに、家族・医師を交えて話し合いを行っている。	終末期へ向けた家族の意向はアセスメントシートに項目を設け確認しており、本人・家族の気持ちに添えるよう支援していく考えです。開設から2年ですがすでに1件の実績があり、若い職員のメンタルケアも漏れなく執り行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、応急手当・急変時の対応を行っている。提携医は24時間連絡がとれるよう対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年2回消防署の指導のもと、避難訓練を行っている。地域の防災訓練において、ホームの入居者の避難・救助の手伝いを取り入れてもらえるようになり、地域との協力体制を築いている。	年2回、火災を想定して行い、備蓄も3日分確保されています。近隣の中学校からの支援もとりつけており、地域連携は順調です。AED講習を地域住民を交えて開催したこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみをもった暖かい言葉で話すよう心がけている。また、プライバシーに配慮し、特に排泄、入浴などに関しては、必要以上に介助を行うのではなく、出来る限り自分で出来るような言葉掛け、支援を行っている。	「親しくなっつい…」ということがないよう、職員には言葉かけについて常々指導しており、入社時にはマナー研修も慣行されています。またトイレの消耗品は棚に扉をつけることでプライバシーを担保しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ一人ひとりと会話をする時間を設け、自己決定を引きだせるような声掛けをし、一人ひとりの思いや希望を聞くように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重し、出来る限り希望にそった生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく自分の意志で洋服を選んで頂いたり、理美容時には本人の希望を伺い、自分らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来ることに配慮し、出来る限りそれぞれに分担しながら、食事の準備や後片付けを職員と一緒にやっている。	2ユニットで同じメニューを提供しています。職員と一緒に準備や片づけにいそしみ、嬉々として自ら進んで取組む利用者もいます。「美味しく、楽しく」をモットーに、例えば正月には白玉を御餅にみたてて好評を博しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成したものを参考にし、作成している。また、食事や水分の過不足のないよう配慮すると共に、その日の体調にも考慮し、きざみ食を用意するなど、一人ひとりの状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを習慣とし、無理なく行えるようにしている。また、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズム、パターンを職員が把握し、可能な限り、自分で排泄できるよう支援している。	「いま、行ってきたよ」と伝えてくれる人もいますが、それ以外の利用者には排泄チェック表に基づいて職員が目配りのうえ声かけしています。パッドが不要になった、リハパンから布パンに移行した向上例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト・食物繊維の多い食材をメニューに取り入れている。散歩や体操等の運動への働きかけも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望にあわせて入浴できるよう支援している。また、一人ひとりのペースを大切に、ゆっくり入浴していただき、リラックスして入浴できるような雰囲気づくりに努めている。	湯は人毎に入れ替え、入浴剤で皮膚が乾燥しないよう気遣っています。めやすは週3回ですが、希望があれば毎日入浴することもできます。嫌がる人もいますが、職員が声かけや誘導を工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンがあるため、日中居室で過ごす時間も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方された薬の作用の理解や、どんな症状に対しての薬であるかを理解するよう努めている。服薬によって、症状の変化が見られた場合には、医師又は看護師に症状を伝え、指示を仰ぐよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、一人ひとりの生活歴を把握するよう努め、洗濯ものをたたんだり、歌、書道、手芸、貼り絵、畑仕事、散歩等、利用者それぞれの役割や、楽しむことのできる場面を作り出すよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩にでかけたり、畑仕事をしたりと戸外に出られるよう支援している。その他、ドライブに行き季節を感じて頂いたり、たまには外食をしたりと、ホーム外での時間も楽しめるよう努めている。	散歩、耕作、ドライブと日常的に外気浴の時間がみられます。岩水寺や菓子工場への見学といった少し遠出となるものも月1回程度あります。近隣のうどん店からは招待を受けていて、今から皆で楽しみにしています。さらに事業所では「出前店舗・うどん打ち、企画も検討中です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ご家族からお小遣いとしてお預かりし、必要な物の購入は職員が代わりにおこなっている。また、個人的にほしいものがあれば、職員が出来る限り一緒に買い物にいくよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者それぞれの希望や力に応じて支援するよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、なるべく明るく、清潔に、また季節を感じる事ができるよう、季節にそった内容の貼り絵などを利用者と共に作り、掲示するよう努めている。	利用者手作りによる毛糸のウサギに出迎えられ、天井の高いリビングにはレクリエーション作品があり、日頃の活動の様子が見てとれます。夜間に次亜塩素酸水で床や手すりを拭いていて、衛生管理も行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓、リビング、どちらでも過ごすことができ、一人でテレビを観たり、気の合う人同士でおしゃべりをするなど、思い思いに過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に可能な限り、利用者の使い慣れたものや、馴染みの物を持って来て頂くようご家族にお願いしている。居室は、基本的にはそれぞれ自由な配置、飾りつけなどを行って頂いている。	居室前のプレートには番地が入り、一般住居さながらです。エアコンとクローゼットが備え付けられていますが、ベット、カーテンは持ち込みです。他にも筆筒や仏壇など自由に持ち込んでもらっている様子を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮しながら、適切な声かけで自立を支援し、過度な介護にならないよう心がけている。		